

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：37303

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590196

研究課題名（和文）学士課程教育における個の変容を的確に示す成果評価のあり方に関する実証的研究

研究課題名（英文）Exploratory research for assessment approach of individual progress by classroom data in undergraduate school education

研究代表者

橋本 健夫（hashimoto, tateo）

長崎国際大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：00112368

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究を進めるためには、学生たちが主体的に参加する授業を作り出すことが必要であるとの認識を持ち、ミニツツペーパーやディスカッションを活用した授業実践を行った。そして、授業中や授業後に収集したデータを分析することから、本テーマに迫った。

その結果、ミニツツペーパーへの教員の書き込みや授業中のパフォーマンスは学生たちの主体性の向上に寄与していることが明らかになった。また、授業中に教員が収集したデータと大学が持つデータを関連させることによって、個の変容がかなり詳しく示せることも明らかになった。

研究成果の概要（英文）：We used communication card and group discussion method in our classroom to foster students' voluntary and active learning, and collected data from the card and student's performance. As a result of analyzing data, we found out that reply on the communication card and feedback on performance by teacher encouraged students to participate classroom. Therefore, such kind of data which collected during a class room showed a change of student explicitly. Furthermore, it revealed that individual progress was showed more precisely when the data was made connection with other data which a university has, for example, student's survey.

研究分野：高等教育

キーワード：授業改善 教学IR 初年次教育

1. 研究開始当初の背景

IT化、国際化によって急速に変化する社会は、生涯学び続け、主体的に考える人材の育成を大学に求めるとともに、その学修成果を明確に示すことを促している。これは、大学教育の質保証を要求するものであり、そのための評価のあり方の追究を要請するものである。

この中で、山田氏は学修成果を示すためには、直接評価と間接評価があることを指摘し、まずは後者を実行に移された。これは、全米で用いられているものを日本版にしたもので、IR コンソーシアムによる学生調査となっている。この自己評価型を徹底するために、ループリックが提唱された。さらに、ある文脈での考え方や行動による直接評価も松下氏によって提唱されている。

本研究グループは、授業改善を進める中で質保証の在り方や、学修成果の的確な評価が見えるのではないかと考えて研究を進めることにした。

2. 研究の目的

本研究グループは、学修成果の的確な評価のためには、直接評価と間接評価の両者を活用すべきと考え、それらを組み合わせた評価のあり方を追究することにした。直接評価には、従来から用いられている授業科目ごとの評点や、レポート等の内容の評価などがある。前者は、個の変容を示すものではあるが、社会的に求められている諸能力の評価には貢献しないと考えられがちであるが、それを学修者の学修態度等と組み合わせることによって新しい意義を見出そうと考えた。

ただ、授業の展開によって、その両者の活用が変化することも考え、分担者が得意とする授業での評価方法を追究することにした。これによって、現在提唱されている様々なアクティブラーニングにも適用可能と考えたのである。

3. 研究の方法

本研究は、次の四つの方法を用いることにした。

米国の大学調査

先進国である米国の大学での実践を調査することによって、本研究での方法を振り返る際の指標としたいと考えたのである。

心理学の授業でのミニッツペーパー（ポートフォリオ）を活用した評価方法の追究

心理学の授業の中で学生が記載するポートフォリオに教員がコメントを返すことによって、両者のコミュニケーションが深まる。この交流と成績評価を組み合わせる。

ECカードを用いた授業における教員個人が収集するデータと大学が所有する入学時のデータを繋ぎ合わせて

個の変容調査

ECカードは授業評価とコミュニケーションを組み合わせたものであるが、これを使って学生の授業への取り組みを調査するとともに、成績評価と組み合わせることによって成果評価へと繋げる。

グループ活動を多用した授業における個の変容

アクティブラーニングでよく用いられるグループ活動における個の変容に焦点を置いての評価のあり方の追究
それぞれの責任者は、次の通りである。

- ・・・橋本優花里、劉 卿美
- ・・・大塚雄作
- ・・・橋本健夫
- ・・・山地弘起

4. 研究成果

本研究の総合的な成果は、次の通りである。

米国の大学での実践は、日本の大学でも十分に行えるものであるが、学生を最優先した大学運営が必要であり、さらに、学修を支援する教員を始めとした多様なスタッフの採用とその組織化が必要であること。

学修成果の的確な評価のためには、目的に沿った形で様々な評価を組入れての授業改善が必要である。また、そのためには、教員と学生とのコミュニケーションが円滑に進められなければならない。これらは、教員の授業に費やす時間が、以前に比べて増大しなければならないことを示している。教員ひとり一人にとって、これが可能になれば、学修成果の的確な評価は実現を増すと考えられる。ただ、アクティブラーニングでの評価には更なる工夫が必要かもしれない。

個々の研究成果をさらに詳しく述べると次のようになる。

米国の大学を対象とした調査

(1) ワグナー大学、グッドマンコミュニティカレッジ、ニューヨーク州立大学
ここで共通していたのは、他大学との差別化をいかに図るかという努力であり、学生を中心に据えたカリキュラムの編成であった。

特に、ラーニングコミュニティをどのように作り、育てるかに苦心が見られた。先輩学生の配置や教員団の配置など、学生の学びを成立させるための仕掛けが至る所で見られた。また、その人たちの目によって学生の評価がなされていた。

(2) ジョージア工科大学、ケネソー州立大学、サウスカロライナ大学、イーロン大学、パシフィック・ルーセラン大学
ここでは、特に初年次教育に焦点を当てて調査した。それは、ディプロマポリシー達成の基盤となり、個をいかに早く的確に把握するかのノウハウを知りたいと考えたからである。

FYEP101 の学習目標は、5 つあり、期末課題では、ループリックを用いて学生が自己評価することになる。それを教員がループリックによって評価し、授業の効果の評価が明らかになるというシステムになっている。ここに示されているように、ダブルチェックによる評価の可視化が試みられている。

心理学の授業でのミニツペーパーの活用

この研究においては、学修成果の的確な評価を行うためには、適切な教育活動を組み立てるためには、評価活動を適切に組み込むことが重要であることが明らかになった。

この研究で用いられたミニツペーパーは、形成的評価の役割を果たしており、総括的な評価と組み合わせることによって弧の変容が明らかになることを浮き彫りにした。

これは、本研究グループの主張、つまり、成果の可視化の前に、授業改善がなければ、その目標は達成されないということが改めて裏付けられた。

EC カードを用いた授業でのデータと大学が持つデータとを繋ぎ合わせての研究

本研究では、教員が授業中に集めたデータ（スモールデータと呼ぶ）と大学が持つ入学時のデータや出席管理データなど（ビッグデータと呼ぶ）を繋ぎ合わせることで、授業改善が可能になるとともに、個の変容が的確に浮かび上がらせることができることが分かった。

まず、スモールデータを中心とした分析によって、毎日の授業を改善する事ができることが示された。また、ビッグデータとの関連を分析すれば、学科ごとの特徴が見え、次学期の授業改善につなげることができることが明らかになった。

グループ活動を中心とした授業での追求

本研究では、次の3湯のことが示唆された。第一に、ぐるーぷわーくを多用するアクティブラーニング型授業では汎用的技能の自己評価が伸長するとともに、この自己評価は対人的適応の指標と生の相関を持つ。第二に、対人的不適応の一側面として、公的自己認識は汎用的技能の自己評価の伸長に負の影響を及ぼし、公的自己意識が高い場合に学修が妨げられる可能性がある。第三に科目の成績と以上の指標との間には有意性が殆ど見られなかったため、今後実際の行動レベルで対人関係傾向と学修成果との関連をさらに検討する必要がある。

このように、アクティブラーニングでの評価は簡単ではなく、それぞれの文脈と関連させた評価を追究しなくてはならないかも知れない。

<引用文献> (主要なものを挙げる)

- 1) 山地・橋本(2012): 学生の納得感を高める大学授業、ナカニシヤ出版
- 2) 鳥居朋子(2005): 大学に於けるインスティテューショナル・リサーチの実効性に関する考察、名古屋高等教育研究、第5号、pp.185-203
- 3) 山田礼子(2012): 学びの質保証戦略、玉川出版
- 4) 小島・太田・菅原(2003): 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み、性格心理学研究、11、pp.86-98
- 5) 楠見ほか(2010): ジェネリックスキルとしての批判的思考力テストの開発、日本心理学会第52回総会論文集、661

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計7本)

橋本健夫・川越明日香(2017): 授業改善のための Connected Data System の構築に向けた基礎研究、長崎国際大学論叢、第17巻、pp.39-50

橋本健夫・橋本優花里(2017): 教育の現代的課題に対する小、中学校教員の理解、長崎国際大学論叢、第17巻、pp.51-61

川越明日香・橋本健夫(2014): 長崎大学と地域社会、長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要、第5号、pp.39-55

山地弘起(2014): アクティブラーニングとはなにか、大学教育と情報、2014-1号 pp.2-7

劉卿美、橋本優花里他(2016): 米国大学に於けるラーニングコミュニティ及びティ・チングコミュニティ、長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要、第7号、pp.25-33

大塚雄作(2015): 大学入試の日本的風土は変えられるか、大学入試センター報告書、pp.21-36

山地・劉他(2015): 大学に於ける学修成果の評価、長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要、第6号、pp.21-36

[学会発表] (計6件)

橋本健夫・川越明日香(2017): 各種のデータを繋ぐことから明らかになる授業改善の視点、大学教育学会第39回大会、発表要旨集録 pp.128-129

橋本健夫・川越明日香(2016): 学生の授業評価を取り入れた授業分析と授業改善、日本高等教育学会第19回大会発表要旨集、pp.40-41

高森智嗣・川越明日香・橋本健夫(2016): ループリックの多面的な活用 課題と展望、大学教育学会第38回大会発表要旨集録、pp.50-51

山地弘起・西田治・谷美奈(2016): ミュージック&ライティングによる新たなコミュニケーション教育の可能性、大学教育学会第37回大会発表要旨集録、pp.52-53

山地弘起・川越明日香(2016): 対人関係傾向とアクティブラーニングの効果、日本心理学会第58回総会(香川大学)
橋本健夫・川越明日香(2016): 小さなデータを活かす授業改善、大学教育学会第38回大会発表要旨集録、pp.238-239

〔図書〕(計2件)

山地弘起他(2016): 『かかわりを拓くアクティブラーニング』、「身体という土壌」, pp.78-104、ナカニシヤ出版
大塚雄作他(2017): 『大学入試センター試験の現状と課題』、「大学入試における共通試験の役割」, pp.1-40、東北大学出版

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等: なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本健夫(HASHIMOTO TATEO)
長崎国際大学・健康科学部・教授
研究者番号: 00112368

(2) 研究分担者

大塚雄作(OOTSUKA YUUSAKU)
大学入試センター研究開発部・教授
研究者番号: 00160549

山地弘起(YAMAJI HIROKI)
大学入試センター研究開発部・教授
研究者番号: 10220360

劉 卿美(YU KYONMI)
長崎大学言語教育研究センター・教授
研究者番号: 00346941

橋本(松本)優花里(HASHIMOTO YUKARI)
長崎県立大学地域創造学部・教授
研究者番号: 70346469

川越明日香(KAWAGOE ASUKA)
熊本大学大学教育統括管理運営機構評価分析室・准教授
研究者番号: 00711962

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者